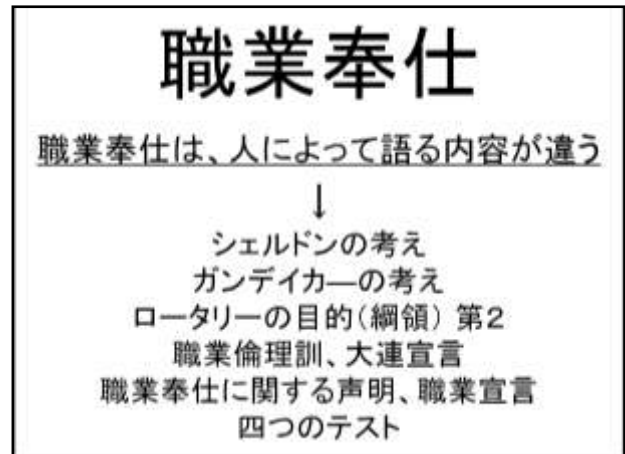


ロータリーの歴史から学ぶ

## 2. 職業奉仕の森

### 1) 職業奉仕は難しい？

「職業奉仕は難しい」という言葉を、よく耳にします。理由は色々あるとは思いますが、大きな理由の一つは、ロータリー通と呼ばれる大先輩達による職業奉仕の説明が、人によって異なるからではないでしょうか？



ある大先輩は、「職業奉仕はシェルドンの考えそのものだ」と言います。また、「職業奉仕は職業倫理そのものだ」とか、「職業奉仕はロータリーの目的（綱領）の第2が全てだ」と語る大先輩もいます。さらに、Guy Gundaker の考え方を説く人もいれば、職業倫理訓や大連宣言を説く人、職業奉仕に関する声明、ロータリアンの職業宣言、ロータリアンの行動規範などを説く人もいます。時には、「四つのテストこそ、職業奉仕の全てだ」と言う人までいます。これでは、聞いている方が混乱するのも当然です。

(なお、四つのテストは、1943年に国際ロータリー理事会が「職業奉仕プログラムの一つの構成要素とする (The R.I. Board in January 1943 made The Four-Way Test a component of the Vocational Service program.)」と決めたものであり、あくまで職業奉仕の良いプログラムの1つに過ぎません。)

こうした説明に共通する特徴は、「職業奉仕は一本の大木」であるかのような説き方ではないでしょうか？ つまり、「職業奉仕とは、こういう立派な大木なのですよ」と説明してくれるのですが、人によって異なる種類の大木のことを説明しているものですから、聞いている方にとっては、ますます「職業奉仕は難しい」となるわけです。

私は、ロータリーの歴史をそれなりに広く深く学んできて、「職業奉仕は一本の大木ではない」と思うようになりました。むしろ、「職業奉仕は森である」と考えています。森は、高い所、低い所、陽のあたる所、陽があたりにくい所など、それぞれの場所で生えている木々は違いますし、また互いに影響し合って生えています。そして、それら全体で森なのです。ですから、例えば高い所に生えている木だけを説明しても、その森を語ったことにはなりません。



それと同じように、「職業奉仕に対する考え方は、歴史上、間違いなく幾つもある。すなわち、職業奉仕という森には、異なる様々な木々が生い茂っていて、また互いに影響し合って育っている。したがって、それらの木々全部を対象にして、はじめて職業奉仕を理解できる」と、私は思うのです。

職業奉仕の森について語る前に、ロータリーにおける職業奉仕の歴史について概観しておきましょう。

## 職業奉仕の歴史

右表は、ロータリーの職業奉仕を理解する上で、重要な項目を挙げたつもりです。これから職業奉仕を学ぶ人には、ぜひ参考にさせていただければと思います。

それらの中でも、職業奉仕の歴史上、特に大きな転機となった重要な出来事が幾つかあります。すなわち、以下に記した9項目です。なぜなら、この9項目こそ、職業奉仕の森を考えて行く上で大切なポイントとなる出来事だったからです。

1905年	シカゴロータリークラブ創立
1908年	Arthur F Sheldon入会
1910年	全米ロータリークラブ連合会(NARC)設立 ロータリークラブの目的(綱領)を採択
1911年	He profits most who serves best を採択
1912年	国際ロータリークラブ連合会 (IARC)に改称
1915年	職業倫理訓(道德律)採択
1916年	A Talking Knowledge of Rotary 発行
1922年	国際ロータリー Rotary International (RI) に改称
1923年	決議23-34 採択
1927年	Vocational Service 正式呼称
1936年	大連宣言(ロータリー宣言)
1943年	四つのテストを職業奉仕のプログラムの1つと決定
1987年	職業奉仕に関する声明 採択
1989年	ロータリアンの職業宣言 採択
2007年	標準ロータリークラブ定款「四大奉仕」を明記
2010年	標準ロータリークラブ定款「五大奉仕」を明記
2011年	ロータリーの行動規範 採択
2014年	ロータリーの行動規範 改定
2014年	ロータリアンの行動規範(上記を再改定し、タイトル変更)

1. ロータリークラブの目的(綱領)の採択(1910年)
2. “He profits most who serves best”の採択(1911年)
3. イギリスを含めた国際ロータリークラブ連合会の結成(1912年)
4. 職業倫理訓(道德律)の採択(1915年)
5. 「A Talking Knowledge of Rotary」の発行(1916年)
6. 決議23-34の採択(1923年)
7. Vocational Service 正式呼称(1927年)
8. 「職業奉仕に関する声明」(1987年)と「ロータリアンの職業宣言」(1989年)の採択
9. 「ロータリアンの行動規範」(2014年)

さて、それでは本題です。職業奉仕の森にはどのような木々が生き茂っているのでしょうか？ 私は右図に示したように、職業奉仕の森は、大きく分けると6つの木々群からできていると思います。そして、最初に生えてきた木々が「職業倫理」です。

次稿から、これら6つの木々群について、順を追って説明していきます。

